2027年6月期第1四半期決算説明会文字起こし

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場 医薬品

企業情報はこちら >>>

2026年11月19日（木）

FISCO Ltd.
https://www.fisco.co.jp

株式会社タウンズ
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

目次

■決算を受けてのFISCOアナリストコメント —— 01

■決算説明 —— 03

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算を受けてのFISCOアナリストコメント

タウンズ<197A>が2026年11月12日に発表した2027年6月期第1四半期決算は、当期より連結決算へ移行し、売上高が3,621百万円、営業利益が925百万円となった。単体ベースでは、売上高が前年同期比52.6%増の3,613百万円、営業利益が同80.8%増の989百万円と大幅な増収増益となった。国内抗原検査キット市場の推計規模は、新型コロナ単品検査キットが前年同期比6割強縮小した一方で、インフルエンザ検査キットは6割弱拡大、新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キットは概ね前年同期並みで推移した。前年同期にみられた市中在庫調整の影響が解消したことに加え、インフルエンザが例年より早く流行期入りしたこと、改良型コンボ検査キット「イムノエースSARS-CoV-2/Flu II」を2026年9月17日に販売開始したことで、インフルエンザ検査キットの売上高は同420.1%増、コンボ検査キットは同188.0%増となった。富士山三島工場の稼働に伴う減価償却費の増加を吸収して増益を確保している。通期予想は売上高16,730百万円（前期の単体比で16.4%増）、営業利益4,374百万円（同4.1%増）で据え置かれているが、売上高の進捗率は21.6%と前期の16.5%から改善した。コンボ検査キットのシェアは19%にとどまっており、新製品によるシェア拡大が期待される局面にある。なお、インフルエンザ、アデノウイルス、新型コロナの各検査キットにおいてトップシェアを堅持している競争力をてこに、現在3位のコンボ検査キットについてもシェアの拡大を図ることとなる。

2026年7月15日に公表した新中期経営計画（2027年6月期～2031年6月期）は、コロナ禍収束後の感染症検査市場の変化を踏まえ、従来の感染症検査メーカーから「診断プラットフォーム企業」への転換を明確に打ち出した内容となっている。前回中計では感染症市場の拡大を前提としていたが、市中在庫の長期化や新型コロナ流行の想定以上の縮小を受け、市場前提を保守的に見直した一方で、中長期の成長戦略は大幅に広げている。

数値目標としては、2026年6月期の売上高144億円、営業利益42億円から、2031年6月期には売上高367億円、営業利益118億円を目指す。売上は約2.5倍、営業利益は約2.8倍となり、営業利益率も29%から32%へ改善する計画である。EBITDAは136億円、ROEは株主還元の水準に応じ32～52%を想定しており、本中計期間中のプライム市場への移行も目標として掲げた。

成長戦略の柱は4つある。第1に感染症POCT（迅速検査）の強化であり、新型コロナ・インフルエンザ同時検査キット「コンボII」の投入や製品ラインアップ拡充によりシェア拡大を図る。また、ElectraDxやAI画像解析「nodoca」など新しいPOCT製品も展開する。第2に受託検査やSaMD（医療ソフトウェア）を加えた検査プラットフォームの拡張で、データ・AI基盤を整備し、新しい診断技術を継続的に創出できる体制を構築する。第3に慢性疾患分野への本格参入であり、心疾患、がん、認知症、糖尿病などへ事業領域を広げ、感染症依存から脱却する。第4にキャッシュアロケーションを明確化し、5年間累計385億円のフリーキャッシュフローを成長投資と株主還元へ配分する方針を示した。

売上構成も大きく変化する見通しである。2031年6月期には呼吸器感染症が引き続き最大事業となるものの、がん、心疾患、認知症、糖尿病など慢性疾患関連事業が新たな収益源へ成長する計画で、感染症流行に左右されにくい収益構造を目指す。営業利益増加要因でも、既存の感染症事業に加え、がんや心疾患など新領域の立ち上がりが利益拡大を牽引するとしている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

決算を受けてのFISCOアナリストコメント

長期ビジョンでは、高齢化や医療人材不足、医療費増大を社会課題と捉え、「診断技術×データ・AI」で診断フロー全体を最適化する企業を目指す。POCT、受託検査、SaMDを相互に連携させる独自プラットフォームを構築し、将来的にはデジタルイムノアッセイ（D-IA）のグローバル展開や、アカデミア・製薬企業・自治体を巻き込んだエコシステム形成まで視野に入れている。従来の検査キットメーカーから、AIとデータを活用する総合診断ソリューション企業への進化を目指すことが、本中計最大の特徴といえる。

感染症流行が業績の振れに及ぼす影響、新規事業の拡大ペースへの不透明感はもちろんあろうが、2027年6月期の1株当たり配当29円（利回り6.0%）を起点とした累進配当が株価を支える大きな材料となる。栄研化学<4549>の配当利回り2.41%、ROE8.5%に対して、タウンズの配当利回りは既述の通りであり、ROEは29.8%となる。中期経営計画が達成できた際、マーケット平均のPER15倍程度まで買われたとしたら、時価総額は1,185億円となる（現状516億円）。高水準の配当を享受しつつ、倍以上のキャピタルゲインを狙うということになる。

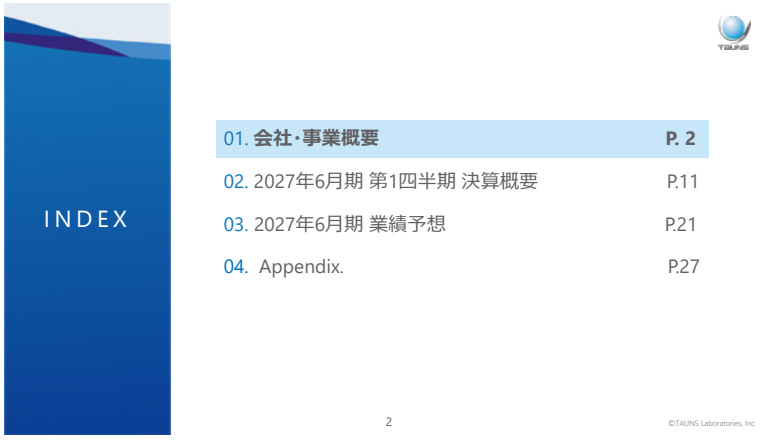
本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明







本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

経営理念

**私たちタウンズは、独自の体外診断用医薬品により、人々の生活に安心と潤いを届けます。
そのために、技術・知識を集積し、新たな製品の開発、品質改善に取り組み続けます。**

診断技術で、安心な毎日を。

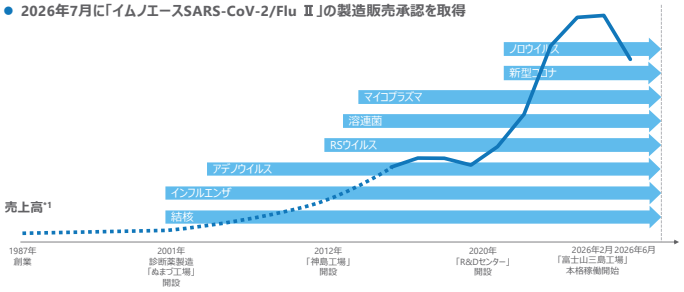
何気なく過ぎていくあたりまえの毎日も。
いつもとは違う特別なひときも。
支えているのは、揺るぎない安心。
私たちタウンズは、独自の診断技術を追求し、
疾病の診断、早期発見のお手伝いをしています。
ひとりひとりの不安を取りのぞくことで、
世界中で未来への見通しをよくすることで、
安心な毎日を支え続けます。

4

©TAUNS Laboratories, Inc.

沿革

- 2000年代初頭より、幅広い抗原検査のラインナップを順次展開
- 2026年2月より富士山三島工場が本格稼働
- 2026年7月に「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」の製造販売承認を取得



*1：2022年6月期売上高は厚生労働省買取分を除く数値

5

©TAUNS Laboratories, Inc.

事業内容

- 主に感染症臨床検査用の抗原検査キットを開発・製造。インフルエンザ、アデノウイルス、新型コロナウイルスなど幅広い感染症領域で、「イムノエース」ブランドを展開

主な製品群

感染症領域



6

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

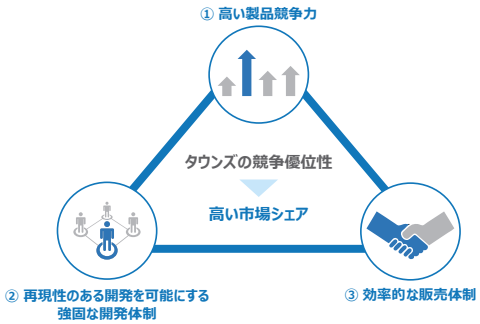
株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

タウンズの3つの競争優位性



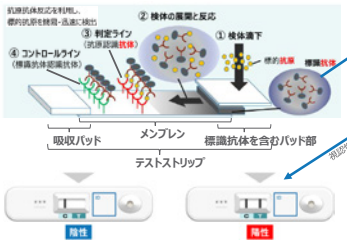
7

©TAUNS Laboratories, Inc.

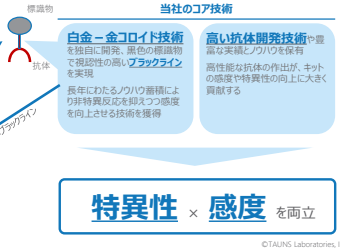
抗原検査キットの原理・当社技術の強み

- 特許を含む豊富な自社抗体の開発実績と、白金－金コロイドをはじめとする独自技術を有する
- 高い技術力を基盤に、特異性と感度を両立した高品質な製品を開発。複数感染症における検体共用を実現するなど、医療現場の利便性向上に貢献

抗原検査キットの原理



当社のコア技術と製品の付加価値



8

©TAUNS Laboratories, Inc.

再現性のある開発を可能にする強固な開発体制

- 豊富な実務経験と高度かつ多様な専門性を有する開発チームが研究開発を牽引
- 社内に蓄積された研究開発ノウハウと社外知見を融合し、スピードと革新性を兼ね備えた開発を推進

長年の経験と豊富な実績を有する開発チーム



- ✓ キャピリアTBやMAC抗体など「世界初」の製品開発実績
- ✓ 白金・金コロイド等の独自技術の開発実績
- ✓ 多くの自社抗体の開発実績（マイコプラズマおよび結核菌群に対する抗体は特許取得済み、その他特許出願中の抗体あり）

*1 研究員の在籍数は2026年9月末時点（正社員）。

専門性の高いPJリーダーと外部機関との連携



協力先・技術顧問・共同研究先のKOL

大倉一郎先生	御手洗聡先生	河岡義裕先生
東京科学大学 名誉教授	結核予防会結核研究所 抗酸菌部 部長	東京大学国際高等研究所 新世代感染症センター 機構長

9

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

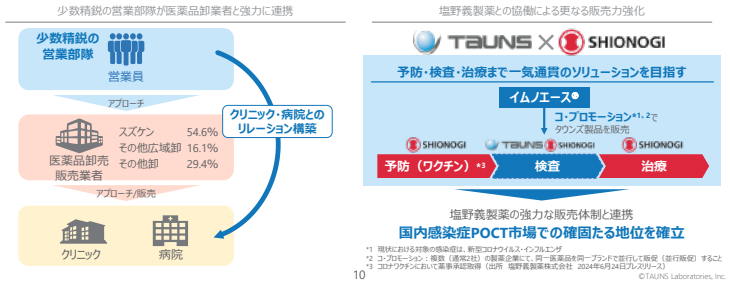
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

商流と営業体制

- 少数精鋭の営業チームと卸業者との強固なネットワークを基盤に、主要な感染症抗原検査キットで国内トップクラスの市場シェアを確立
- 塩野義製薬との協働（コ・プロ）により、感染症対策において「予防→検査→治療」まで一気通貫のソリューションを提供。クリニックに強い塩野義の販売力と、病院に強い当社営業員のシナジーにより、国内感染症POCT市場での事業基盤を強化
- ロシュとの販売提携（コ・マーケ）により、コンボ検査キットを中心に市場シェアの拡大を推進



©TAUNS Laboratories, Inc.

INDEX

01. 会社・事業概要 P. 2
02. **2027年6月期 第1四半期 決算概要** **P.11**
03. 2027年6月期 業績予想 P.21
04. Appendix. P.27

©TAUNS Laboratories, Inc.

2027年6月期 第1四半期 ハイライト

- ✓ 当第1四半期の国内抗原検査キット市場の推計規模は、新型コロナ単品検査キットが前年同期比6割強縮小した一方で、インフルエンザ検査キットは6割弱拡大、新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キットは概ね前年同期並みで推移した
- ✓ 当社の主要製品の市場シェアは引き続き堅調に推移。インフルエンザ検査キットは46%、新型コロナ単品検査キットは45%と高いシェアを維持した。コンボ検査キットについては、当第1四半期のシェアは19%にとどまったものの、9月17日に販売開始した「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」によるシェア拡大を見込む
- ✓ 当第1四半期の主要製品別売上高は、新型コロナ単品検査キットが前期比21.3%減となった一方で、インフルエンザ検査キットが同420.1%増、コンボ検査キットが同188.0%増となった。前年同期にみられた市中在庫調整の影響は、当第1四半期では解消している
- ✓ この結果、当第1四半期の単体業績は、売上高は3,613百万円（前年同期比52.6%増）、営業利益は989百万円（同80.8%増）、経常利益は908百万円（同79.9%増）、当期純利益は620百万円（同73.5%増）となった
- ✓ 当社の完全子会社であるクレアボ・テクノロジーズの当第１四半期の売上高は8百万円、営業損失は63百万円となった。医療AI関連製品の販売拡大に向けた営業活動を推進するとともに、循環器領域を中心とした新製品の上市準備及び事業基盤の強化に取り組んでいる
- ✓ 当第１四半期より連結決算へ移行、当第１四半期連結累計期間の売上高は3,621百万円、営業利益は925百万円、経常利益は844百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は576百万円となった
- ✓ 2027年6月期の連結業績については、「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」の投入によるシェア拡大などにより、売上高16,730百万円、営業利益4,374百万円、経常利益4,026百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,965百万円を見込む

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

2027年6月期 第1四半期の業績（単体比較）

- 当第1四半期の売上高は、前期比52.6%増の3,613百万円となった。前年同期に見られた市中在庫調整の影響が解消したことに加え、9月17日に販売開始した「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」の寄与などによるものである
- 売上高の増加により、売上総利益は前期比38.6%増、営業利益は同80.8%増、経常利益は同79.9%増、当期純利益は同73.5%増となった。富士山三島工場稼働により、売上原価に占める減価償却費が前年同期比160百万円増加したことなどにより売上総利益率は前年同期を下回ったものの、営業利益以降の各段階利益率は前年同期を上回った。
- EBITDAは前年同期比90.6%増と大幅に改善した

（百万円）	2025/6期 1Q		2026/6期 1Q		2027/6期 1Q			2027/6期 1Q（参考：連結）	
	実績	利益率	実績	利益率	実績	利益率	前期比	実績	利益率
売上高	6,419	-	2,368	-	3,613	-	52.6%	3,621	-
売上総利益	4,810	74.9%	1,630	68.8%	2,259	62.5%	38.6%	2,263	62.5%
営業利益	3,745	58.3%	547	23.1%	989	27.4%	80.8%	925	25.6%
経常利益	3,753	58.5%	505	21.3%	908	25.2%	79.9%	844	23.3%
当期純利益	2,696	42.0%	357	15.1%	620	17.2%	73.5%	576	15.9%
EBITDA	3,917	61.0%	729	30.8%	1,391	38.5%	90.6%	1,328	36.7%

13

©TAUNS Laboratories, Inc.

主要製品別の売上高（2027年6月期第1四半期 単体）

- 前年同期にみられた市中在庫調整の影響の解消に加えて、例年より早いインフルエンザの流行期入り、9月における「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」の販売開始などにより、当第１四半期における新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キット及びインフルエンザ検査キットの売上高は前年同期を大きく上回った
- 流行が小規模であったことから、新型コロナ単品検査キットは前年同期比で売上減少となった

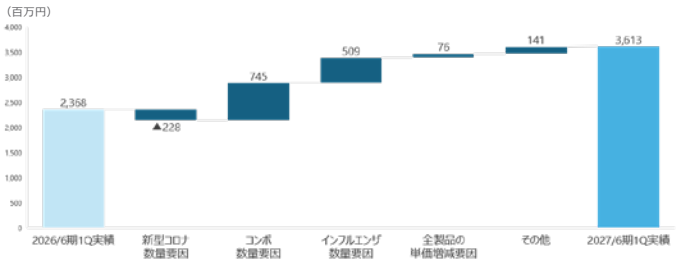
（百万円）	2025/6期1Q		2026/6期1Q		2027/6期1Q		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	前期比
新型コロナ単品検査キット	3,284	51.2%	1,229	51.9%	967	26.7%	-21.3%
新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キット	2,013	31.4%	374	15.8%	1,077	29.8%	188.0%
インフルエンザ検査キット	400	6.2%	179	7.6%	931	25.7%	420.1%
その他（アデノ、溶連菌、RSなど）	720	11.2%	584	24.7%	635	17.6%	8.7%
合計	6,419		2,368		3,613		52.6%

14

©TAUNS Laboratories, Inc.

前年同期比売上高の増減要因（単体比較）

- 売上高増加の主因は、新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キット、インフルエンザ検査キットの販売数量の増加によるものである
- 販売単価は、期初想定の範囲内で推移した



15

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

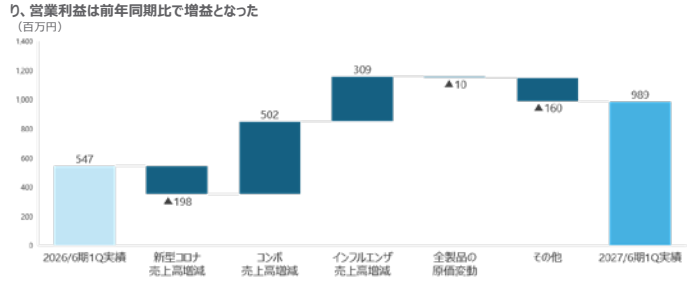
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

前期比営業利益の増減要因（単体比較）

- 当第1四半期においては、富士山三島工場の稼働に伴い減価償却費が前年同期比で219百万円（売上原価分及びSG&A分の合計）増加するなど、費用負担は増加した
- 一方で、新型コロナ／インフルエンザコンボ検査キット及びインフルエンザ検査キットの売上高が大幅に増加したことにより、営業利益は前年同期比で増益となった

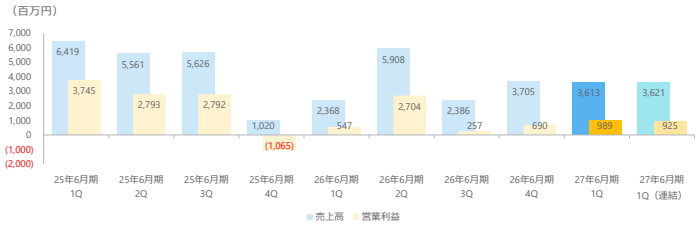


16

©TAUNS Laboratories, Inc.

四半期毎売上高･営業利益推移（単体比較）

- 当第1四半期（7月～9月）の売上高は、前年同期比52.6%増の3,613百万円となった。前年同期にみられた市中在庫調整の影響が解消したこと、インフルエンザが例年に比べ早期に流行期入りしたことによる新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キット、インフルエンザ検査キットの売上増が主な要因である
- 売上高の増加に伴い、当第1四半期の営業利益は前年同期比80.8%増の989百万円となった

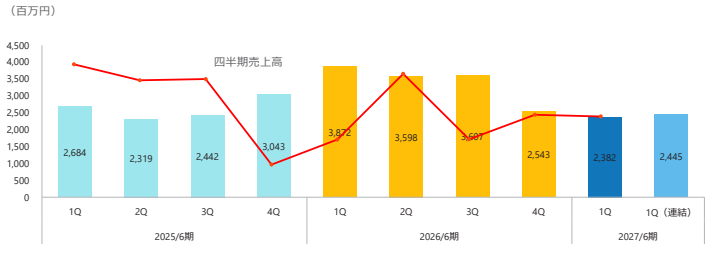


17

©TAUNS Laboratories, Inc.

在庫水準の推移（単体比較）

- 当第1四半期末の製品在庫は適正水準を確保しており、突発的な需要増加にも対応可能な状態を維持している



18

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

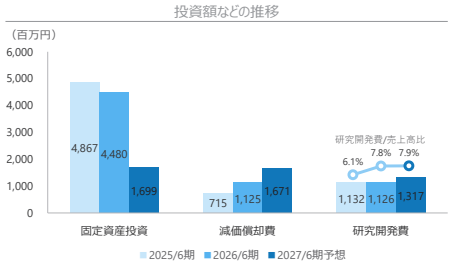
197A 東証スタンダード市場 医薬品

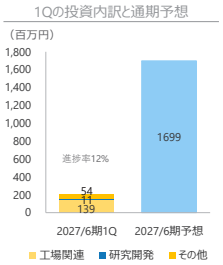
2026年11月19日（木）

決算説明

投資の状況（2025/6期、2026/6期は単体、2027/6期は連結）

- 2026年2月の富士山三島工場の本格稼働に伴い、大型の設備投資は一巡。当期の固定資産投資額（有形固定資産・無形固定資産）は前期比で62.1%減の1,699百万円を見込む





©TAUNS Laboratories, Inc.

貸借対照表（単体比較）

（百万円）	2026/6期1Q	2026/6期	2027/6期1Q	2027/6期1Q（連結）
流動資産	14,863	19,264	16,119	15,940
現金及び預金	4,609	3,563	3,702	3,726
売掛金	2,315	3,986	4,375	4,384
商品及び製品	3,872	2,543	2,382	2,445
仕掛品	1,638	2,670	3,009	3,009
原材料及び貯蔵品	1,300	1,090	1,076	1,076
その他	1,126	5,410	1,573	1,297
固定資産	24,220	25,355	27,324	27,266
有形固定資産	15,464	15,247	15,131	15,140
無形固定資産	3,841	3,591	3,511	3,511
投資その他の資産	4,914	6,516	8,681	8,614
資産合計	39,084	44,620	43,443	43,207

*1 投資その他の資産の増加は、投資有価証券の増額によるもの

（百万円）	2026/6期1Q	2026/6期	2027/6期1Q	2027/6期1Q（連結）
流動負債	9,487	15,253	12,886	12,882
買掛金	1,298	270	427	429
短期借入金	4,500	7,500	7,500	7,500
1年内返済予定の長期借入金	1,695	5,732	2,247	2,247
未払法人税等	161	319	307	287
未払消費税等	0	0	244	244
その他の流動負債	1,832	1,431	2,159	2,174
固定負債	14,077	9,946	12,113	12,116
長期借入金	13,313	8,026	10,116	10,116
繰延税金負債	556	1,691	1,642	1,640
その他の固定負債	207	227	354	359
負債合計	23,565	25,200	25,000	24,999
純資産合計	15,518	19,420	18,443	18,207
負債純資産合計	39,084	44,620	43,443	43,207

©TAUNS Laboratories, Inc.

INDEX

01. 会社・事業概要 P. 2
02. 2027年6月期 第1四半期 決算概要 P.11
03. **2027年6月期 業績予想** **P.21**
04. Appendix. P.27

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

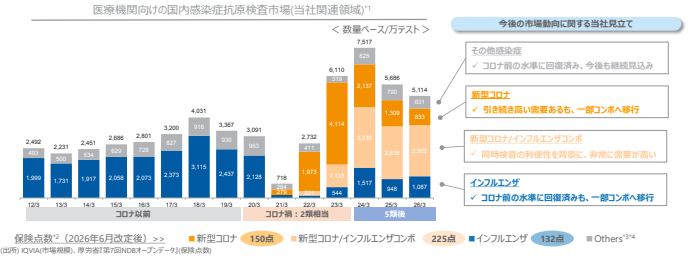
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

医療機関向け国内抗原検査キット市場

- 医療機関向け国内抗原検査キットの市場規模は、コロナ禍以前はインフルエンザ検査を中心に年間約30百万テスト前後で推移
- コロナ禍を経て、新型コロナ単品検査およびコンボ検査が定着したことで、市場規模は24/3には年間約75百万テストへ拡大。26/3においては新型コロナ単品検査の市場規模が減少した一方で、コンボ検査の構成比が50%を超えた



(出所) ICYMA(市場規模)、厚労省(薬価収載品数)、当社(保険点数)

*1：Copyright © 2026 ICYMA, JPM (2011年4月～2026年3月)をもとに自社集計 無断転載禁止。23/3期-24/3期-25/3期-26/3期は、薬局での販売分を除いた数値

*2：新型コロナ及び新型コロナ/インフルエンザコンボ、インフルエンザは2024年6月に改定された後の保険点数から変更なし。その他の疾患はNDBオープンデータの最新期である2026年6月時点の保険点数

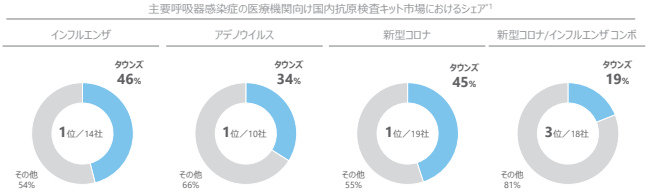
*3：Others内訳(薬価収載品数)：RSウイルス(138点)、アデノウイルス(179～174点)、溶連菌(121点)、マイコプラズマ(A法170点/免疫クロ(D法148点)、ヒトメタニューモウイルス(142～141点)

*4：マイコプラズマは17/3期以降、ヒトメタニューモウイルスは13/3期以降のデータ

©TAUNS Laboratories, Inc.

市場シェアと拡大余地

- 当社は、インフルエンザ、アデノウイルスおよび新型コロナの各検査キットにおいてトップシェアを堅持
- 新型コロナ/インフルエンザコンボ検査キットについては、2026年9月17日に販売開始した「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」によるシェア拡大を見込む



*1：Copyright © 2026 ICYMA. 当社2027年6月期第一四半期のシェアを確認するため、JPM（2026年7月～2026年9月）の期間をもとに自社集計 無断転載禁止。シェアの算出方法は当社の当該期間における検査数を全体の当該期間の検査数で除した割合

©TAUNS Laboratories, Inc.

業績予想

- 2027年6月期の通期連結業績予想は、2026年８月13日に公表した業績予想から変更なし
- 2027年6月期は、「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」の投入などによる売上増を見込む
  （※ 2026年6月期は特別利益に国庫補助金4,363百万円を計上）

（百万円）	26年6月期 単体予想	26年6月期 単体実績	27年6月期 連結予想	利益率
売上高	15,048	14,369	16,730	-
営業利益	4,368	4,200	4,374	26.1%
経常利益	4,127	3,952	4,026	24.1%
当期純利益	5,692	5,495	2,965	17.7%

業績予想策定にあたり、主に以下を前提としている
- ✓「イムノエースSARS-CoV-2/Flu Ⅱ」の投入により、一定のシェア拡大を想定
- ✓ 販売単価は、過去の推移を踏まえ、小幅な下落を見込む
- ✓ コスト面では、富士山三島工場の本格稼働に伴う減価償却費の増加および人件費の上昇を織り込む

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

業績予想の進捗

- 当第１四半期連結累計期間の売上高の通期予想に対する進捗率は21.6%で、前期より改善している

（百万円）	2026/6期（単体）			2027/6期（連結）		
	通期実績	1Q実績	進捗率	通期予想	1Q実績	進捗率
売上高	14,369	2,368	16.5%	16,730	3,621	21.6%
営業利益	4,200	547	13.0%	4,374	925	21.1%
経常利益	3,952	505	12.8%	4,026	844	21.0%
当期利益	5,495	357	6.5%	2,965	576	19.4%

25

©TAUNS Laboratories, Inc.

株主還元

- 2026年6月期より1株当たり28円を下限とする累進配当を導入
- 2027年6月期から2031年6月期までについて、累進配当の下限を1株当たり29円へ引き上げて株主還元を強化する

（円）	中間配当	期末配当	年間配当	備考
2024/6期	6.00	21.75*1	27.75*1	東証スタンダード市場への上場を記念して、1株当たり11円10銭の特別配当を実施
2025/6期	6.00	22.00*2	28.00*2	当社設立10期目を迎えるため、期末に1株10円00銭の周年記念特別配当を実施
2026/6期	14.00	14.00	28.00	1株当たり28円00銭を起点とする累進配当を導入
2027/6期（予想）	14.50	14.50	29.00	2027年6月期から2031年6月期までの累進配当の起点を、29円00銭に引き上げ

*1：うち、上場記念配当11.10円
*2：うち、法人設立10周年記念配当10.00円

26

©TAUNS Laboratories, Inc.

INDEX

01. 会社・事業概要 P. 2
02. 2027年6月期 第1四半期 決算概要 P.11
03. 2027年6月期 業績予想 P.21
04. **Appendix.** **P.27**

27

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

抗原定性検査キットの評価要素分解

- 抗原定性検査キットの主な評価要素は以下の通り。当社は高い検査精度をはじめとする製品競争力を強みとしている

検査精度（感度・特異度）

・感度（陽性者を陽性と判定する割合）
・特異度（陰性者を陰性と判定する割合）
・感度と特異度はトレードオフの関係にあり、高い次元での両立は難しいものの、当社はそれを独自の技術で実現できている

コスト（製品価格）

・保険点数の範囲内で希望小売価格（各社開示）を設定
・実勢価格（各社非開示）は希望小売価格から、卸業者への割戻などを控除したもの
・例：新型コロナ抗原定性検査の保険点数が150点＝1500円に対し当社希望小売価格は1400円

判定時間

・各メーカー/製品によって異なるが、抗原定性検査は一般にPCRなどより早く結果が出る
・当社製品ではインフルエンザ検査キットが5分、新型コロナ単品検査キットが10分、2026年9に販売開始したコンボ検査キットの改良品が10分となっている

有効期間

・経年劣化を勘案しながら、長期保存が可能となるように処方設計を行っている
・当社製品の有効期間はインフルエンザウイルス検査キットが27か月、新型コロナウイルス検査キットが18か月、2026年9月に販売開始したコンボ検査キットの改良品が22か月となっている

検体種

・主な検体種は鼻咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液、咽頭ぬぐい液など
・検体種によって検査精度と侵襲性（患者の負担）に差が生じる。検査精度の高さと侵襲性の低さはトレードオフの傾向にある

手技の簡便性

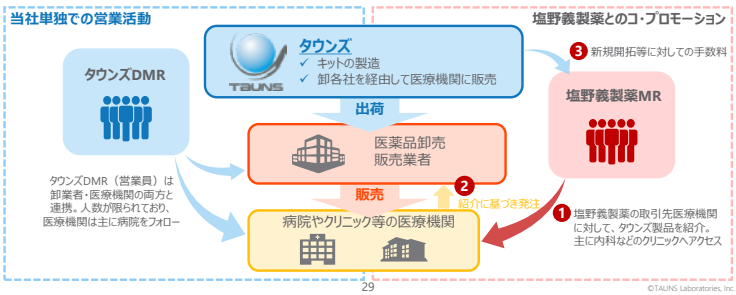
・熟達した検査技師でなくとも手軽に検査できることが、特にクリニックでは重視される
・抗原検査は一般にPCRなどより操作ステップが少なく、目視判定が可能な簡便な検査手法

28

©TAUNS Laboratories, Inc.

当社の商流と塩野義製薬との協働

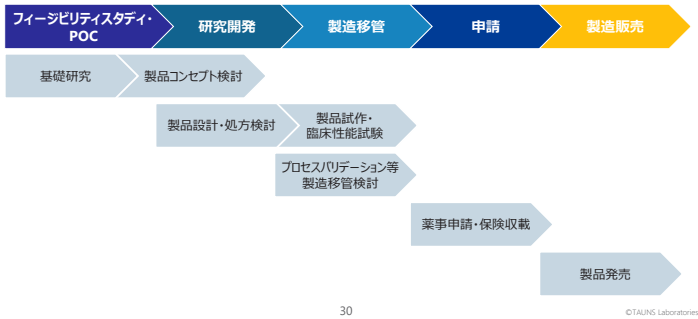
- 塩野義製薬は当社製品を医療機関に紹介し、認知獲得に貢献いただいている
- 医療機関は当社製品を卸売販売業者に発注、タウンズは塩野義製薬に対して貢献に応じた手数料を支払う



29

©TAUNS Laboratories, Inc.

製品ローンチまでの流れ



30

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

株式会社タウンズ

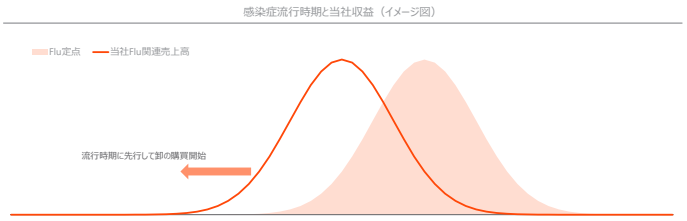
197A 東証スタンダード市場 医薬品

2026年11月19日（木）

決算説明

感染症の流行時期と当社収益（イメージ）

- インフルエンザなどの季節性のある感染症については、流行ピークに先行して卸売業者による購入（≒当社売上計上）が行われる傾向にある
- 季節性の呼吸器感染症は、流行開始やピークに達する時期は前後することがあり、流行時期によって当社収益もピークの時期が前後する

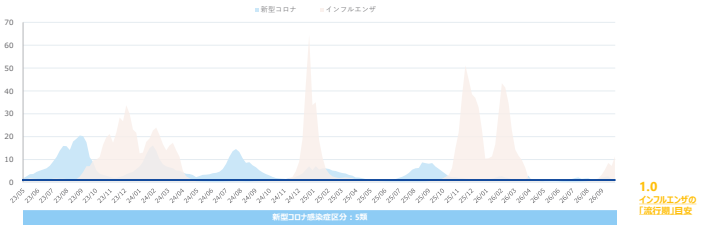


31

©TAUNS Laboratories, Inc.

新型コロナとインフルエンザの流行状況

- 当第1四半期は、新型コロナの流行水準が低位で推移した一方、インフルエンザは例年より早い8月末頃から流行がみられる



（出所）厚労省「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況について」および「インフルエンザに関する報道発表資料」
＊：定点当たり報告数とは、すべての定点医療機関からの週次の患者報告数を定点数で割った値で、1医療機関当たりの週次の平均感染者報告数。全国の定点当たり報告数を表示

32

©TAUNS Laboratories, Inc.

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。
Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

重要事項（ディスクレーマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■
〒107-0062東京都港区南青山5-13-3
株式会社フィスコ
電話：03-5774-2443（IRコンサルティング事業本部）
メールアドレス：support@fisco.co.jp